

「猫専用」検索普及目指す

クラシヨ ペット共生物件は確かな需要

「ペット可能物件」ではなく「猫専用」の検索カテゴリを普及させたい。そう主張するのはリノベーションにより猫が飼える賃貸物件を供給するクラシヨ（東京都葛飾区）杉浦雅弘社長だ。

同社は猫の習性についての研究を積み重ね、猫共生可能な賃貸住宅を開発した。猫は高く安全なところから周囲を監視するのを好むことから、キヤットウォークの設置が必須なのだという。また、猫にストレスを感じさせないために部屋の隅々まで移動できる猫専用扉を取り付ける。滑りにくく傷がつきにくい床や壁紙、網戸なども必要だ。

猫自身には不妊治療または去勢手術を施す。帰巢本能がないため、外に出さないことも条件だ。今後の課題は認知度のアップ。猫物件はまだ一般的なではないため、インターネットの検索ではなかなか探し出してもらえず、仲介会社が営業して初めて一気に入居者が決まった物件もある。



▲リノベーション後、愛猫家によって満室になった猫共生物件